

刊夕日十二月九

常磐每日新聞

定額一冊五錢 一月五拾錢 三月一圓二角 半年二圓五角 一年四圓五角
廣告料五號十二字 第一行五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

各宗の本尊觀

眞繼 雲山

(二)

然るに後の私たちは、悲しき凡智迷妄の故に、その無量壽、佛國土を正智によつて觀照することが出来な

い故に、こゝに他力の法門が生れねばならなかつた。悟りを開いたことは、同時に淨土を觀照し得た所以である。法然上人は叡山にあつて、慧心僧都の往生要集を開き、續いて善導大師の散善義にいたり、ハツタと膝を打つて破顔一笑し、四十餘年の自力修行を捨て叡山を下りて吉水に庵室を結ばれた。

散善義中、上人、會心の文たる『一心に専ら彌陀の名號を念ずる』ことも人間の仕草である『行住坐臥に時節の久近を問は』ざるも人間の仕草である『これを正定の業と名づく』るのも人間の解釋である。たゞその末句の『彼の佛の願に順ずるが故に』といふその『願』の一字に佛の慈光は輝いてゐた。佛名を稱ふるものは救ひ取らずにはおかぬといふのは佛様からのお願ひである。本願であるからこそ救はれるのだと氣附かれた。母親が赤ん坊を抱か

水道擴張工事報告

水道課長 山下勝慶

赤ん坊は抱かれるので抱かうとする母親の願はくば抱かれ得る筈がない。佛の本願に順するのであればこそ往生が叶ふといふのであるから主體は先方でありわれわれは招待されたお客様である。願とは佛であり佛とは願である。

法然上人は、一切諸佛は願のあらはれであると思はれたに相違ない、その本願の慈悲を地上につたへて下された釋尊を大恩教主として淨土宗は今も彌陀、釋迦二尊を併せ祭るばかりでなく觀音、勢至も亦た一佛願のあらはれとして三尊を併せ祀する。三尊併祀は法然上人のひろやかなる信仰のあらはれである。

親鸞聖人は、一切は彌陀本願のあらはれであるばかりでなく、凡夫の念佛も彌陀の計らひであり、その一聲こそは慈悲徹到の生證據であるとせられた。一切は佛願のあらはれなる故に、彌陀一尊を祀ることこそ彌陀の思召に叶ふ所以であるとして嚴に彌陀一佛のみを拜するそれが一切諸佛を正しく禮する唯一の道であることとせられたところから聖人の信仰の純一さを仰ぐことが出来る。――了――

水道擴張工事報告

水道課長 山下勝慶

本町上水道今回の擴張工事計劃は昭和三年十二月五日町會の議決を見たるに依り、工事認可起債許可國庫並縣費補助の各請書を同月十二日主務官廳に提出、然るに昭和五年八月七日附各認可の御指令に接したるを以て、同年九月十七日工事に着手す、擴張の主なるものは取水室一ヶ所、導水管既設十吋管を全部四百耗鐵管に布設替淨水場に於ては着水井一沈澱池一ヶ、池瀘過池二面連續のもの一ヶ池送水管は既設十吋鐵管に並行して、三百耗鐵管を増設す、配水構場は高架水槽一配水池一ヶ池ウエンチュリ

一メートル二基増設配水管に至りては、三百耗鐵管三百四十一間七分、二百五十耗鐵管四百六十一間五分を増設の諸工事に於て、本年五月三十一日を以て遂に其の竣成を告ぐ、此の間隙を關する一年九ヶ月資を投する二十三萬九千餘圓なり斯くして、既設並に當擴張の設備を合せ、人口四萬一人一日四、五立方尺と其他給水二萬立方尺計二十萬立方尺を給水し得べき設備となれり、尙將來増設に困難なる部分、即ち取入口並に

御料鹽豚

田町三二三番

導水及び送水管は將來を鑑み、人口六萬人と其他給水三萬立方尺、合計三十萬立方尺を送水し得る、餘力を存せしめたり則ち以て、工事報告となす。(昨日の竣工式に朗讀)

御料鹽豚
田町三二三番
電話三二二三番

印刷物の御用命は總て
常磐毎日印刷株式會社
電話六〇三番

科人婦・科外
院醫坂井
町田町平
番九五五話電

産名城磐
魚問屋
配達敏速
最優最 志
大日本 賀 目
本盛 一二
平理代 榮 番
店盛 三

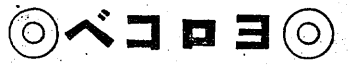
看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

物質一般
各種債券
三井質店
岸川目丁四町平
番六〇六話電

CAFE SEKAI
カキウ奇界
紅、そして青の灯の下に
美女のくむ緑酒を知る御身よ
さらば來り召せ
吾が世界のハレムへ。
美しいオアシス世界の麗女は
いと久しく御身の來るを
心して待てり……

紙質純良・印刷鮮明
御名前入用箋
百枚綴一冊廿錢(三冊以上割引有)
平・長橋 常磐毎日印刷株式會社
(電630)

葬具と
靈柩自
動車御
用達
造花
は
町川新町平
屋本橋
番三六一話電



サフリース生活者

丸儲けの暦が出来た

日曜と祭日の連続は實に五回
ダブル日は一日もない

神宮神部署發行の昭和八年
度の新暦が刊行された明年
は皇紀二千五百九十三年、
みづのと、とりで明治六年
我國が初めて太陽暦を用ひ
た年から丁度一廻りの六十
一年目に當る譯である新ら
しい暦から嬉しい便りをひろ
つて見ると一月一日の四方
拜は別として日曜と祭日の
ダブル……所謂日蝕の一つ
もない事でこれと反對に祭
日と日曜と連続するのが五
回と云ふ豪勢さ先づ二月十
一日の紀元節と翌十二日の
日曜四月二日の日曜と三日
の神武天皇祭更に廿九日の
天長節と卅日の日曜春行樂
の時季サフリースマンには最
も嬉しいものである次で九
月廿三日の秋季皇靈祭と廿
四日の日曜、十二月の廿四
日の日曜と廿五日の大正天
皇祭となつてゐるこれで全
部合計日曜及祭日の休日が
六十四日これに年末年始の
休みを加えると昭和八年こ
そはサフリースマンは三百日
働かなくもいと云ふもの
全く勤め人の丸儲けの年と
來てゐる

昨日の優勝者

昨報平町上水道竣功祝賀式
場内で催された磐城武徳會
支部の剣道及び弓道の試合
は二百餘名の出席あり非常
な盛會を極めたが入賞者左
の如くである

△剣道(一等)好間大谷迄夫
(二等)磐中山形正(三等)
好間加藤公一(四等)平商
吉成一次(五等)磐中和田
廣尙△弓道(一等)平小野
政夫(二等)平長瀬晋八
(三等)平窪相田銀彌(四

職員對生徒 三對二

磐城高等女學校にては昨日
午後二時より職員對生徒の
庭球試合を行つたが戦績は
左の如く三對二のスコアに
職員側辛勝した

田中	3	0	渡邊
淡路	3	0	松永
酒井	3	1	三瓶
佐藤	3	1	熊
安延	1	3	前田
金澤	1	3	遠藤
中川	4	1	菅本
志村	4	1	戸來
穴井	0	3	長瀬
新妻	0	3	石川

仙臺よりの 派兵を受け

平市街演習を 廿二日に決行

昨報大野村のコレラ騒ぎが
崇つて遂に中止となつた平
在郷

軍人分會の平市街演
習は藤田分會長より再三若

松廿九聯隊に交渉したが容
認する處とならず止むなく
更らに仙臺歩兵第四聯隊並
に工兵二大隊に事情を具申
して兵士派遣を懇請の結果

漸く兩隊の承諾を受け第四
聯隊よりは機關銃隊三ヶ分
隊、工兵二大隊よりは撰抜
兵廿餘名を

明廿一日 午後三時廿
三分平驛着列車にて出發せ
しむる旨の回答ありたる爲
め翌廿二日午前五時より壯
烈な市街戦開始と決定した

農産業の 自力更正

上小川で講演

石城郡上小川農事實行組合
では来る廿三日の秋季皇靈
祭をトして農産業自力更正

職員對抗野球戦

申込チームの顔ぶれ

既報濱三郡各小學校職員對
抗野球試合は来る二十三日
午前九時より平第一小學校
グラウンドに於て行れるが締
切日である本日迄の申込チ
ームは五組にて各メンバー
左の如くである

- 一) 田田口田林竹本本川
- 二) 藤原山瓜小水根松上
- 三) 邊藤原井谷手 木木
- 四) 渡佐野石熊玉荒鈴玉
- 五) 藤野羽藤木野地原
- 六) 森伊菅出佐青片引麻
- 七) 木藤原田名野目邊沼
- 八) 鈴佐北藤推海中下鶴
- 九) 本演野木野木木松尻
- 十) 橋小菅鈴木高鈴若江

第二競技豫選 平第

二小學校にては明日午後一

赤木知事 視察豫定

昨日の平町上水道竣功式に
臨席せる赤木本縣知事は同
夜住吉屋本店に一泊本日は
午前九時平署及び土木監督
所、穀物検査所を視察後四
倉町の漁港起工式に臨み午
後二時より自動車にて豊間
江名、小名濱等各漁港を視
察今夕再び平町に一泊翌二
十一日双葉郡へ向つて出發
する豫定である

蘭市況 (18日)

△四倉市場
(白蘭)百三十貫(最高)四十
三圓十錢(最低)三十六圓
(馴)三十九圓五十錢

匪賊 掃蕩 夜話 (16)

滿洲奉天駐劄
軍曹 矢野重光

或る朝の事
様々な面白い事が頭に浮
ん居るが、いさ書くと成

るとなか／＼書く事が出來
ない。此れが人の常で私も
矢張り其れである。何から
何と考へた末、此んな面白
い事が頭に浮んで來た。そ
れを亂筆乍ら書く事にしよ
う。

それは或る一部落に宿營
した時でした。其の日自分
が當番でした。翌朝も矢張
り皆より一時間半ばかり早
く起きて何時もの様に自分
の責任を終らうとした。一
先づ安心と思つて居るうち
に何時もの様に大便に行き
たくなつた。許しを受けて
家の裏の垣根の蔭に陣取つ
た。場所も好いので色々
考へながらヤラカシテ居る
と同分隊のA君が來た。

「よう……君好い所に
陣地を占領したなあ……俺
も仲間に入れて呉れ」と言
つて私のすぐ側へヤラカシ
た。

A君とは同郡出身者で話
も好く合ひ其の内色々な話
から花が咲き、二人でアマ
イサ、ヤキが交換された。
東の空は薄紅色に染つて來
た。廻りの草は重たげに夜
露をビツシヨリ負ふて居た
それでも二人のサ、ヤキは
未だ終らない。多分三分分
位居たかと思はれる頃、突
然然の方より目標と大聲を
張り上げられた。驚いて見
ると鐵帽をかぶつた四五人
の者が一せいに自分達二人
を見詰めて居た。ハツと思
つたが遅かつた。二人は思
はず顔を赤らめた。後は皆
々様の御想像にお任せ致し
ます。後で二人で行く見

新賓に向ふ二日目に暮さは
暑し。山は高く、道は悪く
徒歩隊は前進すれど我々の
命の綱と頼む大行李は遂に
目的地に達せず遅れてしま
つた。飯は炊いたがさて困
つたのは汁である。そこで
考へたのは或る兵隊である
それは外に在つた甕に入つ
て居た支那味噌を汲み取つ
て汁を作つたが我々になれ
ぬ變な臭がする、漸く出來
たので腹も空いて居るので
煮ては見たがその變な臭さ
味は何時迄も忘れることは
出來ない、出動以來支那味
噌を食べたのも初めてであ
る、其れも今だに話の種で
ある

役場に押掛けた

モヒ中毒の一團

一人は立關前で

泡を吹いて悶倒

本日午前十一時半頃平町役場に四名一團となつたモヒヒネ中毒患者が出頭薬が盡きて歩行が出来ぬとして救濟方を願出たが吏員との押問答中一名は立關前にて泡を吹きつゝ打倒れる騒ぎに吏員も閉口し已むなくモヒヒネを與へた處一團は狂喜しつゝ立去つたが此の一團は仙臺市元寺小路五三原田孝吉(四)同人弟久一(三)及び盛岡市旅籠町一〇九志村時雄(二)同市秋山一郎(一)にて何れも猛烈なモル中毒患者で仕事も手つかず救濟を受けつゝ全國を流浪して居る者等である

開き同會の評議員として各町村長を推薦する事の外癩兵の患者には無料診療を行ひ其の家族は共済會員等の取扱を行ふ事と決定散會した

作文國旗 既報平學童應募 第二小學校にては東京時事新報主催の國旗に關する作文に應募すべく全校生徒より右作

明日のラジオ

廿一日

今晚の部
六〇〇 子供の時間 童謡(子鳩音楽會々員)
後七三〇 運動講座「秋のリーグ戦を迎へて」東京野救聯盟六大學野球部主將 後八〇〇 能樂「望月」

實生會能樂堂より中繼
後九〇〇 連續講談「天保六花仙の内くらやみの丑松」三神田伯龍
後九三〇 滿洲より 全國ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

前六三〇 佛敎講座「原人論」梅棹中學々長 櫻井 登山
前七〇〇 彼岸會法要
前九一〇 料理献立「茹玉子のソース和へ」中村 光三
前一〇三〇 家庭講座 後一〇〇五 俚諺 永井錦 水外
後二〇〇〇 家庭大學講座「子供の心」(一)東大助教 授青木誠四郎

明日の部

後六〇〇 子供の時間 童謡「チビのなまけ」粟津 勸
後七三〇 講演
後八〇〇 獨唱とヴァイオリン獨奏 獨唱 船橋榮 吉、ピアノ伴奏 高折宮次
ヴァイオリン・アレキサンダー・モギレフスキー・ピアノ・ナデジタロイヒ デンベルヒ
後八五〇 連續講談「天保六花仙の内くらやみの丑松」三席 神田伯龍

遊里にバラまいた

四萬數千圓の預金

元磐越銀行預金係員の

業務上横領罪豫審終結

平町字番匠町十九番地會社員齊藤廣吉(三)は業務上横領罪として平刑務所に收監され平支部藤原豫審判事係り審理中の處本月有罪と決定公判に廻され近日公判開廷される事になつたが被告

齊藤は大正十一年より昭和四年三月迄平町南町磐越銀行の預金係として勤務中自己取扱に係る預金中より四萬數千圓を横領し遊里の巷に湯水の如く費消したものである

判事取調中であるが此程に至り被告西牧は以前郷里に於ても同僚を短銃で射撃せる事發覺藤原豫審判事及び上田檢事は明後二十二日平發五時四十分にて淺野書記と共に犯人同道郷里の原籍地に實地檢證に出張する事になつた

平町研町一二大工職佐々木喜平方大工相馬郡石神村字深野生れ細川敏(三)は去十九日主人佐々木方より解雇され同夜友人の仲間町田澤文治郎方を尋ね家人の不在なるを見済して田澤所有の大工道具時價十五圓餘を窃取し高飛びせんと平驛を徘徊中同驛取締巡査に取押られ目下平署で嚴重取調中である

拘らず軍衛の命を傳達すべき者を定めて本籍役場に届け置く事を怠り兵役法施行規則違反として科料七圓に本日各々平區才判所に於て略式命令を以て處分された

衣類窃取搜索 平町古鍛冶町ラムネ商佐藤善次郎方に去る十八日夜何者か忍入り衣類五時時價七圓餘を窃取届出により目下平署で犯人捜査中

上田科醫院 平町 南町 電話一二九番

曾我校長

正七位に

重なる榮譽

先般高等官六等待遇の榮譽を擔つた平第一小學校長曾我直治氏は更らに今回正七位に叙せられた

共済病院 警城共濟病院

にては去る十八日午前十時より同病院内に於いて井上會長及び野崎、萩原副會長外理事五名出席役員會を

短銃で父を

襲撃した犯人

判檢事出張

既報岩瀬郡川東村四十三番地食肉商西牧武(三)が本年六月二十二日午後十二時頃小名濱町警城劇場附近で實

父松藏(五)を五連發の短銃で打ち殺さんとした尊屬殺人未遂事件は當時所報の如くにて目下平支部藤原豫審

△石城郡四倉町字仲町九十一番地自動車運轉手四家子之吉(三)は本年六月七日内郷村大字綴字堀坂地内に於て通行人星野捨司に衝突負傷せしめ乍ら警察官吏に申告せず自動車取締違反として罰金二十圓△平町字紺屋

平町研町一二大工職佐々木喜平方大工相馬郡石神村字深野生れ細川敏(三)は去十九日主人佐々木方より解雇され同夜友人の仲間町田澤文治郎方を尋ね家人の不在なるを見済して田澤所有の大工道具時價十五圓餘を窃取し高飛びせんと平驛を徘徊中同驛取締巡査に取押られ目下平署で嚴重取調中である

平町研町一二大工職佐々木喜平方大工相馬郡石神村字深野生れ細川敏(三)は去十九日主人佐々木方より解雇され同夜友人の仲間町田澤文治郎方を尋ね家人の不在なるを見済して田澤所有の大工道具時價十五圓餘を窃取し高飛びせんと平驛を徘徊中同驛取締巡査に取押られ目下平署で嚴重取調中である

平町人事 南町七八 高瀬子之吉氏 三女トキ子

△研町一四 當時横濱市神奈川區子若町一ノ二 稻葉專市市三女和世

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第一百五十六席

女流劍客里見靜枝

子分が五助の自慢

長谷部傳藏は虎五郎の子
分の申すを聞き

傳「各々は櫻井に就て劍術
を學ばれたと」

子分「左様でござんす、そ
れは上手だ、流儀は何とか
の一刀流と云ひました、一
刀流にもいろ／＼あるさう
でございます」

傳「左様、小野派一刀流、
北辰一刀流、又溝口家一
刀流」

子分「それだ、櫻井先生
の劍術は溝口の一刀流、然
し腕が出来てゐるから天狗
を云ひません、自分が工夫
したものがそれを秘して
ゐます、茲が尊いことだね
昔の人の遺して行つた糟を
なめて名人がつてゐる馬鹿
野郎が多い、櫻井先生には
そんないやしい心は微塵も
ございせん、育つほど土
に手をつく履かな」

傳「それは柳だ」

子分「柳も履も同じやうな
ものだ、それは櫻井先生に
有つて見れば判りますが大
層な人だね、おつとりとし
てそれでいけとなると強い
その上劍術は名人でござい
ます」

傳「その櫻井は名を五助
と云つて苦笑したがさア傳
藏は心配した、里見主計の
道場にて櫻井の爲に友人兼
下平八、秋田丈助と與に辛
き目を見せられ命あるが幸
と逃げたが其後里見を暗殺
いたした、其時は櫻井は江
戸に居らなんだがこの虎五
郎の許に來てゐるか、斯く
とは知らず秋山よりの書狀
を持つてこれへ尋ねて參つ
たが死地に入りしも同然、
此處に永くはゐられない、
然し櫻井も里見が横死した
した事はまだ知るまい、
知らねば

傳「馴染でござる、しかも
痛い馴染でござる」

傳「左様か、イヤ手前は櫻
井殿には會ふた事もあり、
又劍術を教へて貰つた事も
ある」

子分「それではお馴染で
ござんすね」

傳「馴染でござる、しかも
痛い馴染でござる」

傳「左様か、イヤ手前は櫻
井殿には會ふた事もあり、
又劍術を教へて貰つた事も
ある」

子分「それではお馴染で
ござんすね」

傳「馴染でござる、しかも
痛い馴染でござる」



傳「馴染でござる、しかも
痛い馴染でござる」
と云つて苦笑したがさア傳
藏は心配した、里見主計の
道場にて櫻井の爲に友人兼
下平八、秋田丈助と與に辛
き目を見せられ命あるが幸
と逃げたが其後里見を暗殺
いたした、其時は櫻井は江
戸に居らなんだがこの虎五
郎の許に來てゐるか、斯く
とは知らず秋山よりの書狀
を持つてこれへ尋ねて參つ
たが死地に入りしも同然、
此處に永くはゐられない、
然し櫻井も里見が横死した
した事はまだ知るまい、
知らねば

心した、是から五日ばかり
たつての事、虎五郎の子分
と與に熊谷に遊びに行つた
その不在中に戻つて來たは
櫻井五助
五「親分、これは三峰山の
お札でござる」
親「あゝさうですかどうで
すお山は人が出ますかナ」
五「大分參詣の者もござる
テ、あれから秩父の長に參
つて兩三日滞在したしたが
好い風景であるな」
虎「長は秋の末が、いゝさう
で時に先生こんな手紙が江
戸の秋山先生から來ました
が見て下さい」
と出した一通、五助はそれ
を取上げて讀み下したが
五「これは意外、この書狀
によると里見殿は長谷部傳
藏の爲に非業なる死を遭げ
られたるか、シテその傳藏
は當家に居るか」
と刀を取つて立上るを止め
た虎五郎
親「マア先生お待ちなさい
お前さんはこの長谷部とい
ふ者を御存知かねヘー三
人組と云つて江戸道場を荒
し廻つた奴だと、ヘーそ
いつは悪黨だなア、里見先
生とお前さんの爲に打たれ
たを遺恨に、卑怯な奴だ」
五「三人にて討果した事と
存する」
親「傳藏は怪儀をしてゐま
す、それから考へると後の
二人は里見先生の爲に殺さ
れたものでございませう、
ところで先生、お前さんが
今茲で傳藏を斬ると里見様
の娘御が敵を討つことが出
來ねえ、それですからお前

さんは何にも知らねえやう
に見せて里見様の娘御が此
處へ尋ねて來るまで傳藏を
生かして置くがよい、また
わたくしも彼が里見様を殺
して江戸を立退いたといふ
ことは知らねえ様にして置
きます」
五「左様か、それで里見
の息女が參るまで傳藏をこ
れへ差置くことにいたす」
と二人は謀し合した、長谷
部は照谷で遊んで竹藏とい
ふ子分と共に戻つて來まし
た。

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

お醤油はヤマフル
醬油味噌
たひら正宗
鯉節食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町電話營業部(醸造工場)
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥
松前
家傳
靈効散(無効返)
ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致しました。
今迄のは福島市内で製藥したので兎角の批評があり
ました。今度のものは眞正のもので奏効確なもの
です。服用しなくては其の眞價が判りませぬから、皆
様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて
下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病
に苦しむ方、惱病、心臓、痔疾の方は是非御試し下
さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散
も出來ました。
定價
試用分(八日分) 輕症用(廿日分)
重症用(四十五日)
平町古鍛冶町縣社ノ下
靈効散 地方代理店 阿康藥舖
販賣部 電話四四番

漆器は共が専門
品質の正確と!!!
値段の破格と!!!
在庫品の豊富と!!!
懸命の奉仕は!!!
弊店のモットー!!!
各國産漆器専門卸小賣
丸共共榮漆器店
平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)
記念表彰品。恩賜賞與品。御注文應調製
進物贈答品。賞品景品類。御注文應調製
店員募集 (十三才ヨリ二十三才マデ)

お醤油はヤマフル
醬油味噌
たひら正宗
鯉節食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町電話營業部(醸造工場)
明治生命磐城代理店 山崎與三郎